

昭和初期における地域型生活修身教育の理念 －神戸市教育課『生活指導の修身教育』を題材として－

渡邊言美（初等教育学科）

Idea of regional morals based on children's life in the early Showa era
as the theme of "moral education of life guidance" by Kobe Education Division

Kotomi WATANABE (Department of Elementary Education)

抄 録

論文は1931（昭和6）年3月に刊行された神戸市教育課編刊『生活指導の修身教育』および、同月に刊行された『生活指導の修身教育 教授細目篇 尋常科之篇』を主要史料として用い、戦前期神戸という地域で目指された「生活指導の修身教育」の理念の特徴を明らかにすることを目的とする。国定修身教科書の趣旨の徹底という前提のもと、神戸市という地域の特性にあわせた指導、学校生活・家庭生活実践を通しての徳目理解という授業方法が論じられていることがわかった。

キーワード：道徳教育，生徒指導，生活指導，修身科